

## 図書館教育研究部

### 1 本年度の研究主題

「読書活動をとおして、豊かな心を育て、ことばの力を高めるために学校図書館を充実させる。」  
サブテーマ  
「学校図書館のもつ教育的機能をいかし、読書活動の充実・推進に関する取組を工夫する。」

### 2 研究組織

部会長	小林 昌宏 (東綾)				
副部会長・会計	安楽 康史 (大山崎)				
事務局長	船越 寿子 (八田)				
専門研究員	久保 正典 (和知)	船越 寿子 (八田)	小谷美佐子 (和田)		
地域部長	相 楽 濱田ほなみ (泉川)	綴 喜 河野 弘子 (田辺)			
	城 久 高田 盛士 (南城陽)	宇 治 宮城 望 (西小倉)			
	乙 訓 木村 直子 (長岡二)	亀 岡 丸山 知美 (詳徳)			
	南 船 氷置 竜史 (蒲生野)	綾 部 船越 寿子 (八田)			
	福知山 廣瀬 悟 (大江)	舞 鶴 小谷美佐子 (和田)			
	与 謝 塩見 優馬 (栗田)	京丹後 草川 史 (丹後)			

### 3 研究の概要

#### (1) 事務局会議

地域部長会に先がけ事前に打ち合わせを行い、地域部長会での提案進行、情報発信及び研究推進の核として、部会を先導した。

#### (2) 地域部長研究会

##### ア 第1回 6月26日(月) 亀岡市交流会館

○組織体制、専門研究員の紹介、年間事業方針・研究主題等の確認、事業計画等

○次年度研究大会：京都府学校図書館研究大会（京都市主管）の見通しの共有、レポート発表（相楽担当）の確認

○第69回青少年読書感想文全国コンクールへの参加・応募について

○各支部または地域部長からのお薦め本の紹介交流

○地域交流：感想文コンクールの取組予定、図書館の開室・運営状況の交流

##### イ 第2回 10月19日(木) 亀岡市交流会館

○第69回青少年読書感想文全国コンクール応募作品の府審査、12地域から選出されてきた64編より12編を選出した。 ※11/2府市合同審査会に事務局員、副部会長参加

##### ウ 第3回 12月7日(木) 亀岡市交流会館

○読書感想文、府・市・私合同審査会の内定結果報告（12編中10編が入賞）

○活動のまとめ、読書感想文集の作成、次年度研究テーマの検討、地域交流

○各支部または地域部長からのお薦め本の紹介：大賞の選考

○ミニ研修：「アナログもデジタルも～古くて新しい新聞活用を子どもたちに～」

専門研究員 船越 寿子

### 4 成果と課題

- (1) 学校図書館の開室・運営について、各支部で工夫している取組を交流することができた。
- (2) 第69回青少年読書感想文コンクール京都府大会に、全ての学校が参加し、府市私合同審査会に応募した12編中10編が入賞した。各支部・各校で趣旨を理解いただき、教科や図書館教育担当者の熱心な指導の成果と考えている。
- (3) 専門研究員の実践から、読書活動を推進するための学校図書館づくりの方法や中学生へのお薦め本選定の参考にできる活動ができた。
- (4) 学校図書館の学習センターとしての機能が期待されている。教科等で学習センターとしての学校図書館活用を促進するため、地域部長会での協議内容を各支部に伝達し、蔵書や読書環境の改善・充実を図ることが必要である。
- (5) 次年度の京都府図書館協議会(SLA)大会（京都市主管）について確認を行った。
- (6) SLAの分担金の取扱いについて、地域による差異が交流された。分担金の納入が地域部長の大きな負担になっていることから、引き続き整理を行う必要がある。

## 1 研究主題

読書活動を通じて、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにしていくために学校図書館の機能を充実させる。

サブテーマ：生徒の意見を聞く機会を確保し、学校図書室の運営への主体的な参画を実現し、読書活動を推進する。

## 2 活動方針

ア 各学校の図書室運営などについての交流を図り、読書活動を推進するとともに図書室利用の一層の活性化を図る。

イ 読書感想文コンクールの審査を行うとともに、読書指導の向上を図る。

ウ 読書センターとしての機能向上のための方策を全校で実践する。

## 3 活動内容

### (1) 第1回主任会 6月14日

ア 令和5年度事業計画作成

イ 第69回青少年読書感想文コンクールの選考についての概要

ウ 各校の交流(図書室の運営方法、図書委員会の取組、司書やボランティアの活用等について)

### (2) 第2回主任会 9月25日

ア 第69回青少年読書感想文コンクールの審査

### (3) 第3回主任会 12月6日

ア 中間報告 各校の交流

イ 府中研からの報告と最終報告について

### (4) 第4回主任会 2月14日

ア 来年度の活動について

イ 最終報告 各校の交流、Formsによる図書館アンケートについて

## 4 本年度の成果と課題

### (1) 成果

ア 各校の図書室の運営方法、図書委員会の取組、司書やボランティアの活用等について交流し、自校の図書室運営や委員会活動の参考とすることができた。また、報告書を共有フォルダに提出し、自由にデータを閲覧できるようにした。

イ 読書感想文の審査を行うにあたり、審査の観点や基準を交流し読書感想文でどのような指導が必要かを考えることができ、良い審査が行えた。

ウ Formsを利用し、読書や図書館に対する生徒の意識調査を前期と後期2回実施することができた。また、その結果を交流し読書活動における相楽ブロックの課題を考えることができた。

### (2) 課題

ア 読書活動を通じて、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにしていくために、より積極的な地域交流を図る必要がある。

イ 司書やボランティア等、府立図書館や地域の図書館と連携して、子どもたちの読書環境を整え、学習センターとして機能も高めていく。

ウ 読書感想文の指導体制や指導法を交流し、言葉の力を高める取組にできるようさらに研鑽を重ねる。

## 1 研究テーマ

「読書活動を通して、豊かな心を育て、ことばの力を高めるために学校図書館を充実させる。」

活動の重点

- (1) 読書する習慣や感想文指導の充実を図り、質の高い作品を生み出す研究を行う。
- (2) 学校図書館司書との連携の在り方を探り、より充実した図書館の運営について研究する。
- (3) 読書センターとしての充実・推進に関する取組について研究する。

## 2 活動内容

(1) 5月23日(火) 第1回主任会(京田辺市立大住中学校)

- ア 部長・副部長の決定
- イ 年間活動計画の確認
- ウ おすすめ本及び実践交流

(2) 10月3日(火) 第2回主任会(京田辺市 とうちく)

- ア 読書感想文審査会
- イ 各校の実践交流

(3) 1月15日(月) 第3回主任会(京田辺市立培良中学校)

- ア 地域部長会報告
- イ 年度総括
- ウ 各校の実践交流

## 3 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ア 各校の実践交流から、コロナ禍における図書室の運営の仕方や注意すべき点、朝読書の取組、図書委員会の取組について学び合うことができた。
- イ 「おすすめの本」を交流したり、図書室の配架の仕方など意見交換をすることができた。
- ウ 読書感想文の審査会を行い、読書感想文指導の方法や読書感想文を書く意義など、多岐に渡り、交流し合うことができた。

(2) 課題

- ア 学校図書館司書との連携の在り方や取り組み例について交流し、よりよい図書館運営について検討する機会をもつ。
- イ タブレットの導入により、「調べ学習の場」よりも、「読書を親しむ場」「本に出会う場」としての図書室の在り方を考えていく。

## 1 研究テーマ

読書活動を通して豊かな心を育て、ことばの力を高めるために学校図書館を機能させる

## 2 活動内容

### (1) 活動の概要

- ア 第69回青少年読書感想文コンクールの審査
- イ 各校の読書教育・開館状況の交流
- ウ 朝の読書の実施状況の交流
- エ 校内研修会の実施状況の交流
- オ 学校図書館司書との連携
- カ 城陽市立図書館・京都府立図書館との連携

### (2) 活動の記録

- 7月6日 主任会 部長・副部長の決定・研究主題の設定・年間事業計画の作成  
地域部長会報告・各校活動の交流
- 9月20日 主任会 第69回読書感想文コンクール審査・各校活動の交流
- 11月10日 主任会 地域部長会報告・各校活動の交流・今年度のまとめ

## 3 本年度の成果と課題

### (1) 成果

- ア 第69回青少年読書感想文コンクールに参加することができた。
- イ 各校の図書館教育・開館状況・委員会活動や研修会の内容を交流し、学び合うことができた。
- ウ すべての学校で朝の読書に取り組むことができた。
- エ 図書館教育に関わる校内研修の実施状況について交流することができた。
- オ 学校図書館司書との連携をとることができた。
- カ 巡回図書によって城陽市立図書館と連携をとることができた。(城陽市の学校)

### (2) 課題

- ア 生成AIの普及による読書感想文指導の変化に対応していく必要がある。
- イ 図書室利用状況をより活発にするための活動や指導方法を考えていく必要がある。
- ウ 朝読書における電子書籍の使用について、今後検討していく必要がある。
- エ 図書館教育に関わる校内研修の在り方と方法を工夫していく必要がある。
- オ 学校図書館司書との連携を、引き続き進めていく必要がある。
- カ 京都府立図書館のセット貸し出し利用促進を工夫していく必要がある。

## 1 研究テーマ

読書活動をとおして、豊かな心を育て、ことばの力を高めるために学校図書館を充実させる  
～学校図書館のもつ教育的機能をいかし、読書活動の充実・推進に関する取組を工夫する～

## 2 活動内容

- (1) 「読書感想文コンクール」の取組と審査会の実施
- (2) 各校の活動交流と課題解決に向けての研究協議
- (3) 学校図書館運営、及び読書指導に関する研修

## 3 本年度の成果と課題

### (1) 成果

- ・電子図書の活用をして、中央図書館との連携を深められた。
- ・各校で「読書指導・読書活動」を推進した。コロナ対策を踏まえながら行うこともできた。
- ・学校司書の巡回頻度が上がり、連携を深められた。
- ・昨年は見合わせた学校もあったが、本年度は選書会を工夫しながら開催する学校もあった。
- ・読書感想文審査会の日程を各校の行事を鑑みて決定することができた。
- ・山城地方「本のポップカードコンテスト」に積極的に出品することができた。

### (2) 課題

- ・読書感想文コンクールへの取組が消極化傾向に有り、解決への手立てを模索中である。
- ・良書提供のための「廃棄・除籍」作業が難航している。
- ・タブレットをはじめ、ICT機器の導入に伴い、調べ学習などでの図書の使用頻度が落ちている。

1 研究テーマ

生徒の興味関心を喚起する読書指導について研究し、学校図書館の運営や図書の実充を図る。

2 活動内容

(1) 乙訓地方中学校教育研究会 図書館教育部会 (6月27日紙面報告)

ア 本年度の研究活動方針について

イ 活動計画について

(2) 乙訓地方中学校教育研究会 図書館教育部部長会 (9月22日)

ア 各校の実践交流

イ 読書感想文コンクール審査

(3) 乙訓地方中学校教育研究会 図書館教育部会 (12月8日紙面報告)

ア 京都府読書感想文コンクールの結果報告

イ 乙訓読書感想文集の発行について

(4) 乙訓地方中学校教育研究会 図書館教育部会 (1月31日紙面報告)

ア 本年度研究活動のまとめ

イ 乙訓読書感想文集の発行

ウ 本年度の活動のまとめ

3 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ・各校での図書館教育部の活動や取組実践について交流し、より良い、学校図書館づくりを目指すことができた。
- ・読書感想文の審査を、グループに分けて実施し、上位に挙げたものを再度検討することにより二段階で、代表作品を選出することができた。

(2) 課題

- ・生徒の興味・関心を喚起する読書指導の実践をより充実させ、実践の交流を進めていく。
- ・読書感想文の事前指導方法についての交流を進め、各校の実践に生かしていく。
- ・他教科や他領域との連携、地域の公共図書館との連携を図り、学校図書館の「読書センター」「学習情報センター」としての機能をより充実させていく。

## 1 研究テーマ

「学びを育て、豊かな心を育てる図書館教育のあり方を考える」

- (1) 読書意欲、読書力を育成する。
- (2) 朝読書を充実させる。
- (3) 校内研修を実施する。
- (4) 図書館の有効活用について研究する。

## 2 活動内容

- (1) 本年度の研究重点、年間計画、アンケートについて（7月6日）
- (2) 亀岡市七中学校読書アンケート（一学期に各校実施）
- (3) 亀岡市読書感想文審査会及び図書主任会（10月16日）
- (4) 生徒会図書部員交流会（3学期 実施方法を合わせて検討中）
- (5) 読書感想文集の作成（2月 実施予定）
- (6) 本年度総括（2月 実施予定）

## 3 本年度の成果と課題

### (1) 成果

- ア 主任会を Teams で実施することができ、「教師のおすすめの本」の交流ができた。
- イ 読書アンケートを本年度も継続して実施し、図書主任会や各校の研修の資料として蓄積することができた。学校行事で結果を活用することもできた。
- ウ 図書館運営の交流をすることができた。特に、本年度から学校司書の配置があり、図書館教育部との協働の在り方について交流ができた。
- エ 読書感想文の審査会の実施方法を変更し、作文の内容に迫った審査会が実施できた。
- オ 生徒会図書部員交流会を実施するためのねらいや課題点を整理できた。
- カ 各校において図書館教育にかかる校内研修や選書会の取組が充実してきた。

### (2) 課題

- ア 亀岡地域のレポート発表も見据えて、読書アンケートの質問項目を検討していく。
- イ 生徒会図書部員交流会の実施時期や方法を検討していく。
- ウ 学校司書とのより良い分業、協働の在り方を各校の実践から検討していく。

## 1 研究テーマ

生徒に付けさせたい力：豊かな人間性、主体的に考え、判断できる力

活動方針：豊かな心を育み、ことばの力を高めるための図書館教育を追求する。

主体的に考え、判断できる生徒を育てる。

## 2 活動内容

4月26日 第1回部会（京丹波町立蒲生野中学校）  
令和5年度活動方針・研究主題等の決定  
読書感想文コンクール作品募集について  
読書感想文集の位置付け・共通確認事項について  
各校図書館教育の実践交流  
（図書館運営・朝読書のもち方などについて）

10月3日 第2回部会（京丹波町立蒲生野中学校）  
第69回読書感想文コンクール南丹・船井ブロック審査会  
（地域内9中学校から全32点出品）  
各校図書館教育の実践交流  
（読書活動推進と読書感想文指導について）

2月19日 第3回部会（京丹波町立蒲生野中学校）  
令和5年度の活動の総括  
文集「南丹・船井図書館教育の歩み」（読書感想文集）作成  
各校図書館教育の実践交流  
（図書館運営、今年度次年度の課題などについて）

## 3 成果と課題

### （1）成果

- ア 各校の実践や図書館の実態等を交流し、自校の実践を振り返り、図書館教育の充実を図ることができた。
- イ 読書感想文コンクールの取組について、各校の事情を踏まえた上で、地域全体として統一した指導を行うための共通確認ができた。
- ウ 朝読書や図書館の円滑な運営などの取組により、読書週間の定着、利用者や貸出冊数の増加につなげ、読書への意欲を高めることができている。
- エ 読書感想文審査を通して南船の代表を選出するとともに、読書感想文の取組における指導や実施方法の工夫について交流し、研修することができた。
- オ 読書感想文集の作成について確認し、「各校の実践を地域内の全中学校に広げ、広く読書について啓発するための文集」と位置づけることができている。

### （2）課題

- ア 他地域や近年の新しい図書館運営の実際や取組を交流し、幅広く読書かつ指導についての研鑽を深める。
- イ 図書館教育について、各校で行う職員研修の企画や実施内容を充実させるための研究が必要である。
- ウ 読書感想文指導のあり方や実施方法、その選定や審査などに関する研究を進める。

## 1 研究テーマ

学びを広げる 言葉を育む 学校図書館

～いつも行きたくなる場所 いつまでも居たくなる場所として、魅力ある図書館づくりを目指す～

## 2 活動内容

(1) 綾部市学校教育研究会春季研究会 図書館教育部会 (5月10日)

ア 本年度の研究・計画について

(2) 綾部市学校教育研究会夏季研究会 図書館教育部会 (8月18日)

ア ミニ研修「表現の原石を磨く～子どもの読書感想文を輝かせる～」

イ ワークショップ「読書感想文の書き方」

ウ 読書感想文コンクール審査について

(3) 綾部市中学校読書感想文審査会 (9月21日)

(4) 綾部市小学校図書館教育部との連携

ア 八田中学校 学校図書館見学

イ 学校図書館の運営・環境整備について (ミニ研修)

## 3 今年度の成果と課題

(1) 成果

- ・ 専門研究員を中心に、読書感想文の書き方や、読書感想文を生徒に書かせるまでの学校図書館の運営について報告することで、学校図書館の役割についても共有することができた。
- ・ 小学校の図書館教育部と連携し、中学校の学校図書館を見学してもらうことで、高学年から中学生への読書移行期における図書資料について意識を高めることができた。

(2) 課題

- ・ 学校図書館の「読書センター」としての環境整備を継続すると共に、「学習センター」「情報センター」としての機能も活用できる運営方法について、研究を深めたい。
- ・ 学校図書館の教育的価値について、各校における校内研修を通して図書館教育部員以外の教職員にも積極的に発信していきたい。
- ・ 朝読書を実施しない学校が出始めている。朝読書の意義や効果について、各校の年度当初に再確認し、読書に親しむ態度を育成することで、学校全体としての意識を高めたい。

## 1 研究テーマ

豊かな心を育て、ことばの力を高めるために学校図書館を充実させる  
～読書センター機能を充実させ、読書活動推進に関する取組を進める～

## 2 活動内容

### (1) 7月7日 第1回図書館教育研究部会(大江中学校)

- ア 地域部長会報告
- イ 研究主題、年間計画の提案
- ウ 第69回青少年読書感想文コンクールについて
- エ 読書指導、読書活動推進、「ふくちやまし電子図書館」利用状況の交流

### (2) 10月5日 第2回図書館教育研究部会(福知山市市民交流プラザ)

- ア 読書感想文一次審査(福知山地域【10校48点】から5点選出)
- イ 選定図書、図書館運営の交流

### (3) 2月中 本年度の総括(書面提案)

## 3 今年度の成果と課題

### (1) 成果

- ア 各校の実態に合わせてアフターコロナの図書館運営を行っている。コロナ禍で開館実施してきたノウハウを生かし、学校司書との連携、工夫を凝らし読書活動推進ができた。
- イ 各校時程の実態に合わせて朝読書や昼読書が実施できた。
- ウ 府読書感想文コンクールに応募し、福知山支部として一定の評価を受けることができた。

### (2) 課題

- ア 図書館を利用する生徒が少ない学校がある。各校の実態に応じた図書館運営の在り方を再検討し進める必要がある。(学校司書との連携や図書委員会の活動、教科指導での利用など)
- イ 読書活動推進を目指した図書館運営を追求するため、学校間の交流をさらに進める必要がある。
- ウ 図書管理、図書の廃棄の観点から、電子化を全ての学校が強く希望している。(※電子化＝バーコードによる図書管理を指す。現状は手入力による図書管理、カード記入による貸出処理)主任会の交流だけに止まらず、具体的に導入予算と導入にあたる手間等を含めて検討し、導入の必要性を伝える必要がある。

## 1 研究テーマ

「読書活動をとおして、豊かな心を育て、ことばの力を高めるために学校図書館を充実させる」

### 方針

- (1) 各校の活動状況を交流し、学校図書館の充実を図る。
- (2) 読書を広げるための啓発活動を各校で推進する。
- (3) 図書館教育及び読書活動に関する研修内容を検討し、実施する。
- (4) 国語科と連携し、読書感想文コンクールに向けて指導の充実を図る。
- (5) 「主体的・対話的深い学び」の充実を目指すために、図書とICTを活用した取組や授業を実践する。

## 2 活動内容

- (1) 第1回図書館部会（4月19日）
  - ア 研究活動方針・内容の決定
  - イ 各校の取組の交流
- (2) 第2回図書館部会（10月2日）
  - ア 第69回青少年読書感想文コンクールの審査
  - イ 研修会の内容について
  - ウ 各校の取組の交流
- (3) 第3回図書館部会 研修会（3月1日）
  - ア 舞鶴市図書館司書の方による啓発活動について
  - イ 電子書籍について
  - ウ おすすめの本

## 3 本年度の成果と課題

### (1) 成果

- ア 図書室の開館・利用状況、委員会活動、購入図書の選定、朝読書の実施状況等、図書館の運営や利用、生徒の読書活動に関わる取組についての交流を図り、各校の実践に活かすことができた。
- イ 国語科と連携して、読書感想文コンクールに取り組むことができた。1作品が京都府京都市合同審査会に進むことができた。
- ウ 図書館司書の方から啓発活動について学ぶことができた。電子書籍をどのように活用するかも交流できた。

### (2) 課題

- ア 読書活動を一層充実させるために、幅広く読書指導についての研究を進める。
- イ 読書感想文の書き方指導についてさらに交流し、学び合うことをしていきたい。
- ウ 地域の図書館との連携を図り、ICTと書籍を効果的に使うことで生徒たちの学びを深めていきたい。
- エ 情報センターとして、図書室をどのように機能させるかを今後も検討していく。

1 研究テーマ

読書活動をとおして、豊かな心を育てる  
～読書意欲を喚起させるための学校図書館の充実～

2 活動内容

(1) 研究部総会・第1回部会 4月19日(水)

- ア 活動方針(研究テーマ)の設定
- イ 事業計画の作成
- ウ 予算計画の作成

(2) 第2回部会 6月12日(月)

- ア 「心に響いた本・言葉集」について
- イ 読書感想文コンクールについて
- ウ 読書活動に関する実践交流

(3) 第3回部会 8月21日(月)

- ア 地域部長会の報告
- イ 「心に響いた本・言葉集」の編纂
- ウ 読書感想文審査会について

(4) 第4回部会 10月12日(木)

- ア 読書感想文審査会
- イ 読書感想文集の作成について

(5) 第5回部会 2月2日(金)

- ア 今年度のまとめ・来年度に向けて
- イ 読書感想文集の作成
- ウ 各校の実践交流

3 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ア 各校の実践交流を通して、読書活動への意欲を高める実践を交流することができた。また、読書習慣の実態を共有し、課題解決に向けた手立てを考えることができた。
- イ 「心に響いた本・言葉集」の作成を通し、生徒のニーズに合った図書を採択することができた。また、各校において、「心に響いた本・言葉集」を活用した取組を行ったり、図書室の掲示・装飾を工夫したりすることができた。
- ウ 与謝地方中学校読書感想文集を発行し、優れた読書感想文を交流することができた。

(2) 課題

- ア 読書意欲を更に喚起していくために、各校の実践を交流し、自校の取組に生かす。
- イ 「心に響いた本・言葉集」の改善、活用方法について今後も検討していく。
- ウ 生徒が自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的に環境整備を推進していく。本に親しみが持てる、通いたくなる図書室の在り方を考えていく。

1 研究テーマ

「豊かな心を育て、ことばの力を高めるために学校図書館を充実させる。」  
～各校の取組を交流し、読書活動の推進に関する取組を工夫する～

2 活動内容

- (1) 5月8日 第1回図書館教育部会〔峰山中学校〕
  - ア 部長選出
  - イ 研究テーマ、活動計画、予算案作成
- (2) 6月23日 第2回図書館教育部会〔丹後中学校〕
  - ア 読書アンケートについて
  - イ 読書感想文について
  - ウ 支部推薦図書 of 交流
- (3) 10月2日 第3回図書館教育部会〔弥栄中学校〕
  - ア 読書感想文コンクール京丹後市代表作品の選考
  - イ 地域部長会の報告
- (4) 12月1日 第4回図書館教育部会〔弥栄中学校〕
  - ア 読書感想文集の作成
  - イ 地域部長会の報告
  - ウ 年度総括

3 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ア アンケートを実施し、経年変化をまとめることができた。市内6中学校の読書への意識の向上がみられた。各校図書館利用率を上げるための取組等を交流できた。
- イ 京丹後市の読書感想文の選考については、審査基準をもとに選考することができた。
- ウ 部会において、支部推薦図書の交流が、購入図書の選定に役立てられた。

(2) 課題

- ア AIの発達が進み、「チャットGPT」などに代表されるような生成AIが急速に発展する中で、読書感想文などに不適切に活用されることなども懸念される。対応のためにも、正しい活用について考えていく必要がある。
- イ 図書室の開館時間が非常に短い中で、各校の実態に応じた取組を交流し、さらに充実した環境を作る必要がある。
- ウ 各校で新たに購入する図書を部会にて交流し、図書室に配架される図書がより良いものとなるよう、部会として取り組むことが望ましい。